

地方独立行政法人北海道立総合研究機構
令和5年度の業務実績に関する評価結果の反映状況について

| 評価項目（※） | 令和5年度業務実績に関する評価結果 において取組の強化を求められた事項 | 業務運営及び計画への反映状況 |
|---------------------------|--|---|
| 1 研究の推進 及び成果の普 及・活用 | <p>○研究成果の発信・普及 電子媒体による公表件数の減少により、令和4年度より引き続き、数値目標を下回る結果となった。 今後は、様々な機会を捉えてさらに成果の普及や情報の発信に努める必要がある。</p> | <p>【令和6年度実績】 ○研究成果の発信・普及について、以下の取組を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 終了年度であった戦略研究「食」と「地域」についてオープンフォーラムを開催するなど、前年度に引き続き積極的な成果の公表に取り組んだことにより公表件数は増加したものの、数値目標を下回った。 ・ 成果発表会やセミナー、刊行物、ホームページ等を活用し研究成果や知見の発信・周知を行った結果、行政や企業等で活用された成果の数は数値目標を達成した。 ・ 階層別研修にて、成果発表の動機づけや課題立案・遂行のスキル向上などのカリキュラムを実施し、研究成果の公表件数の増加につながるよう取り組んだ。 ・ 本部と研究本部が連携して、「北洋銀行ものづくりサステナフェア」、「ビジネスEXPO」、「アグリビジネス創出フェア in Hokkaido」等の展示会に出展し、製品化の事例等を紹介した。さらに、子どもを対象にしたイベント「サイエンスパーク」や「カルチャーナイト」などを積極的に開催（または出展）し、科学に興味を持ってもらうように努めた。 ・ 令和5年度の主な研究成果をまとめた「研究成果の概要」などの各種資料を作成し、ホームページやフェイスブック等への掲載、展示会等での配布及び常設展示コーナーや連携機関での配架を進めた。積極的に企業訪問を行い、訪問数は増加した。 ・ 農業、水産、森林の各研究本部では、道の普及組織と緊密な連携を図り、生産者に対して最新の研究成果の広報、普及を行った。また、研究成果や知見に関する情報共有や、研究・普及活動の相互協力について意見交換を行い、研究成果は生産現場における指導に活用された。 ・ 研究成果の発信・普及の際には、シンボルマークを積極的に活用するとともに、ノベルティの配布等により道総研の認知度向上に努めた。 |

| 評価項目（※） | 令和5年度業務実績に関する評価結果 において取組の強化を求められた事項 | 業務運営及び計画への反映状況 |
|---------|--|---|
| | | <p>【第4期中期計画】</p> <p>○研究成果の発信・普及について、以下の取組を行う。 研究成果を広く発信するため、学会での発表や学術誌への投稿等を行うとともに、成果発表会やセミナー、刊行物、ホームページ等を用いて研究成果や知見を広く公表・周知する。 また、技術資料等の作成や展示会への出展、企業訪問、技術支援、関係機関との連携交流などの多様な方法を用いて、研究成果の普及・活用を促進する。</p> <p>○数値目標の見直し 実績や業務実態等を踏まえ、数値目標の見直しを行った。 第4期：研究会・学術誌等での成果の公表件数：2,500件 第3期：口頭及び刊行物による成果の公表件数：3,500件</p> <hr/> <p>【令和7年度計画】</p> <p>○研究成果の発信・普及について、以下の取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学会での発表や学術誌への投稿等を行い、研究成果を広く公表する。 ・ 成果発表会やセミナー、刊行物、ホームページ等を用いて研究成果や知見を広く発信・周知する。 ・ 技術資料等の発行や展示会への出展、企業訪問などにより研究成果の普及・活用を促進する。 ・ 道の普及組織との連絡会議等により、研究成果や知見に関する情報の共有を図るとともに、連携して研究成果のPRや現地指導に取り組む。 ・ 農林水産分野においては、道の普及組織等と緊密に連携し効果的な普及に取り組む。 |

| 評価項目（※） | 令和5年度業務実績に関する評価結果において取組の強化を求められた事項 | 業務運営及び計画への反映状況 | | | | | | | | | | | | |
|---------------|---|---|------|---|------|--------------------------------------|------------|---|---------|--|------|-----------------------------------|----------|--|
| 3 総合的な技術支援の推進 | <p>○技術相談、技術指導等の実施 技術相談の件数の減少により、数値目標を下回る結果となった。 今後は、技術支援制度の更なる利用拡大に向けて、様々な機会での制度周知などの情報発信に努める必要がある。</p> | <p>【令和6年度実績】 ○技術相談、技術指導等の実施について、以下の取組を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 企業等からの依頼に応じて、各種技術支援を行った。 <table border="1" data-bbox="1039 347 2119 903"> <tbody> <tr> <td data-bbox="1039 347 1368 432">技術相談</td> <td data-bbox="1375 347 2119 432">道民や企業等からの技術的な問合せや相談に対して、関連技術や研究成果等の情報を相談者に提供した。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1039 437 1368 521">技術指導</td> <td data-bbox="1375 437 2119 521">道総研の研究成果や知見等を用いて、技術的な問題の解決に向け指導を行った。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1039 526 1368 644">講師等派遣・依頼執筆</td> <td data-bbox="1375 526 2119 644">講師や委員・アドバイザー等として、専門的見地に立った助言を行った。また、企業等からの依頼を受け、刊行物等に掲載する原稿を執筆した。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1039 649 1368 734">課題対応型支援</td> <td data-bbox="1375 649 2119 734">通常の技術指導に加えて、追加・補助的な試験、分析、測定、調査、評価等を実施した。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1039 738 1368 823">技術審査</td> <td data-bbox="1375 738 2119 823">書面や審査委員会において、研究開発事業に係る技術的な審査を行った。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1039 828 1368 903">技術開発派遣指導</td> <td data-bbox="1375 828 2119 903">製品・新技術の開発、生産工程の改善等を支援するため、職員を企業等に派遣し、指導を行った。</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 複雑化・多様化するニーズに対応するため、本部の総合相談窓口で電話やメールで相談を受け付け、関係する研究本部、試験場において対応を行った。 また、案件に応じ、連携協定機関や外部の企業、専門家を紹介し、相談者が抱える課題の解決に努めた。 企業への技術支援のプラットフォームである北海道イノベーションプラットフォーム（連携協定4機関での取組）では、セミナーの開催や、技術相談の業務担当者による勉強会を行った。 | 技術相談 | 道民や企業等からの技術的な問合せや相談に対して、関連技術や研究成果等の情報を相談者に提供した。 | 技術指導 | 道総研の研究成果や知見等を用いて、技術的な問題の解決に向け指導を行った。 | 講師等派遣・依頼執筆 | 講師や委員・アドバイザー等として、専門的見地に立った助言を行った。また、企業等からの依頼を受け、刊行物等に掲載する原稿を執筆した。 | 課題対応型支援 | 通常の技術指導に加えて、追加・補助的な試験、分析、測定、調査、評価等を実施した。 | 技術審査 | 書面や審査委員会において、研究開発事業に係る技術的な審査を行った。 | 技術開発派遣指導 | 製品・新技術の開発、生産工程の改善等を支援するため、職員を企業等に派遣し、指導を行った。 |
| 技術相談 | 道民や企業等からの技術的な問合せや相談に対して、関連技術や研究成果等の情報を相談者に提供した。 | | | | | | | | | | | | | |
| 技術指導 | 道総研の研究成果や知見等を用いて、技術的な問題の解決に向け指導を行った。 | | | | | | | | | | | | | |
| 講師等派遣・依頼執筆 | 講師や委員・アドバイザー等として、専門的見地に立った助言を行った。また、企業等からの依頼を受け、刊行物等に掲載する原稿を執筆した。 | | | | | | | | | | | | | |
| 課題対応型支援 | 通常の技術指導に加えて、追加・補助的な試験、分析、測定、調査、評価等を実施した。 | | | | | | | | | | | | | |
| 技術審査 | 書面や審査委員会において、研究開発事業に係る技術的な審査を行った。 | | | | | | | | | | | | | |
| 技術開発派遣指導 | 製品・新技術の開発、生産工程の改善等を支援するため、職員を企業等に派遣し、指導を行った。 | | | | | | | | | | | | | |

| 評価項目（※） | 令和5年度業務実績に関する評価結果において取組の強化を求められた事項 | 業務運営及び計画への反映状況 | | | | | | | | | | | | | | |
|------------|------------------------------------|---|----|-----|--------|-------|--------|-------|--------|-------|------------|-------|--------|-----|----|--------|
| | | <p>【第4期中期計画】</p> <p>○技術相談、技術指導等の実施について、以下の取組を行う。 地域や企業等が抱える技術的な課題を解決するとともに、研究成果の活用促進や研究ニーズを把握する機会として、技術相談、技術指導、講師等派遣・依頼執筆、課題対応型支援、技術審査、技術開発派遣指導を実施する。 また、利用の一層の拡大に向けて、企業等への訪問やホームページ等により技術支援制度や活用事例を分かりやすく説明するとともに、利用者の要望に応じて機動的な対応を行う。 これらについて、組織横断的な視点を持って取り組む。</p> <p>○数値目標「技術相談、技術指導等の実施件数」について、中期目標の指示を受け、新たに研究本部ごとの数値目標を設定。</p> <p style="text-align: right;">（単位：件）</p> <table border="1" data-bbox="999 767 1632 1070"> <tbody> <tr> <td>本部</td> <td>230</td> </tr> <tr> <td>農業研究本部</td> <td>3,310</td> </tr> <tr> <td>水産研究本部</td> <td>1,110</td> </tr> <tr> <td>森林研究本部</td> <td>1,240</td> </tr> <tr> <td>産業技術環境研究本部</td> <td>5,710</td> </tr> <tr> <td>建築研究本部</td> <td>400</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>12,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和7年度計画】</p> <p>○技術相談、技術指導等の実施について、以下の取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域や企業等が抱える技術的な課題を解決するとともに、研究成果の活用促進や研究ニーズを把握する機会として、技術相談、技術指導、講師等派遣・依頼執筆、課題対応型支援、技術審査、技術開発派遣指導を実施する。 企業等への訪問やホームページ等により、技術支援制度や活用事例を分かりやすく説明するとともに、利用者の要望に応じて機動的な対応を組織横断的に実施する。 | 本部 | 230 | 農業研究本部 | 3,310 | 水産研究本部 | 1,110 | 森林研究本部 | 1,240 | 産業技術環境研究本部 | 5,710 | 建築研究本部 | 400 | 合計 | 12,000 |
| 本部 | 230 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 農業研究本部 | 3,310 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 水産研究本部 | 1,110 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 森林研究本部 | 1,240 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 産業技術環境研究本部 | 5,710 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 建築研究本部 | 400 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 12,000 | | | | | | | | | | | | | | | |

| 評価項目（※） | 令和5年度業務実績に関する評価結果において取組の強化を求められた事項 | 業務運営及び計画への反映状況 |
|---------|---|--|
| | <p>○依頼試験、設備使用等の実施 依頼試験の申込件数は増加したが、設備使用の申込件数が減少し、数値目標を下回る結果となった。 今後は、利用者のニーズや意見等を把握し、利便性の向上などに取り組み必要がある。</p> | <p>【令和6年度実績】</p> <p>○依頼試験、設備使用等の実施について、以下の取組を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 企業等の技術開発、製品開発などを支援するため、企業等からの依頼に基づき、各種試験・分析・測定・調査等を行い、成績書を交付した。 また、企業等の技術開発、製品開発などを支援するため、試験設備や機器の貸出しを行った。 ・ 利用者意見把握調査を実施し、寄せられたニーズ・意見等を踏まえ、利便性の向上を図った。 ・ 利用の増加に向けて、引き続き依頼試験・設備使用の概要をホームページで公開したほか、金融機関・企業訪問やチラシ配布等の積極的なPRを行い、発信機会の増加に取り組んだ。 <p>【第4期中期計画】</p> <p>○依頼試験、設備使用等の実施について、以下の取組を行う。</p> <p>企業等の技術開発を支援するため、依頼に基づき、試験、分析、測定等の依頼試験を実施するとともに、試験設備及び機器の貸与を行う。</p> <p>また、企業等への訪問やホームページ等により、技術支援制度や使用可能設備等の周知を行うとともに、利用者の意見を踏まえ、利便性の向上を図る。</p> <p>【令和7年度計画】</p> <p>○依頼試験、設備使用等の実施について、以下の取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 企業等からの依頼に基づき、試験、分析、測定等の依頼試験を実施するとともに、試験設備及び機器の貸与を行う。実施に当たっては、試験データ等の適切な取扱いや確認作業を徹底する。 ・ 利用の拡大に向けて、企業等への訪問やホームページ等により、技術支援制度や使用可能設備等の周知を行うとともに、利用者の意見を踏まえ、利便性の向上を図る。 |

※「令和5年度地方独立行政法人北海道立総合研究機構の業務実績に関する評価結果」（令和6年8月北海道公表）による評価項目